



平成 20 年度日本ジオパーク連絡協議会総会

2008 年 7 月 18 日金曜日 14 時から 16 時まで東京の文京区シビックセンター 3F で平成 20 年度日本ジオパーク連絡協議会総会が開かれました。出席者は白滝 1 名、アポイ岳 1 名、洞爺湖 4 名、小田原・箱根 3 名、南アルプス 3 名、糸魚川 3 名、福井 1 名、山陰海岸 5 名、室戸 1 名、島原 8 名、五浦海岸 1 名、福井 1 名、島根 2 名、日本ジオパーク委員会 4 名、GUPI4 名の 42 名で会場はいっぱいとなりました。

総会は米田徹会長の開会の挨拶の後、日本地質学会ジオパーク支援委員会を代表して高木秀雄氏（早稲田大学）から、日本ジオパーク委員会を代表して加藤碩一氏（産総研）から来賓ご挨拶をいただきました。委員会事務局の渡辺真人氏（産総研）からもご挨拶がありました。その後議事に移り、平成 20 年度事業計画 平成 20 年度予算 その他の議案を審議しました。今年度事業計画では、「ジオパークについては、日本ジオパーク委員会が設立され、申請も始まるなど、その活動は大きく前進した。当協議会では、日本各地のジオパークを世界ジオパークのガイドラインに沿った質の高いものとするため、調査研



究および情報収集を行うとともに、ジオパークに関する情報発信及び周知を図る」という活動方針が承認されました。

「その他」では、国内ジオパークが誕生した後の日本ジオパークネットワークの設立と連絡協議会のありかたについて話題になり、今後役員やメーリングリストで検討を続けていこうということになりました。



議事後、第3回ジオパーク国際ユネスコ会議報告に移り、産総研の渡辺真人氏より全体の報告があった後、洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会の木村尚司氏から「ブルカンアイフェルジオパーク視察調査報告」がありました。ブルカンアイフェルは世界ジオパークの中では数少ない火山のジオパークですから、

火山国日本にとっては大変参考になりました。また、フォッサマグナミュージアムの竹之内耕氏からは「テラヴィタの Escher 氏からのヒアリングメモ」(高知の近藤英文氏作成)の紹介もありました。テラヴィタは大変地味なジオパークですが、全体として、ヨーロッパのジオパークはヨーロッパ人の好みにあうスタイルになっており、日本でも日本のスタイルに合わせたジオパークをめざしていくべきであろうという議論になりました。

最後に、遅れてこられた日本ジオパーク委員会の中川和之委員(日本地震学会)からもご挨拶をいただきました。次回は連絡協議会メンバーの地域に集まってさらに友好をあたためようと、なごやかな懇談のうちに閉会となりました。